

# 大豆管理情報（第2号）

令和6年7月17日  
農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過（図1）

### （1）気温

5月下旬の平均気温は、18.4℃（対平年差-0.6℃）と平年に比べ低かった。  
6月の平均気温は、23.2℃（対平年差+1.8℃）と平年に比べかなり高かった。  
7月1～3半旬の平均気温は26.5℃（対平年差+2.1℃）と平年に比べかなり高かった。

### （2）降水量

5月下旬の降水量は、5月28日の大雨の影響もあり、133.0mm（対平年比368%）と平年に比べかなり多かった。  
6月の降水量は、150.0mm（同87%）と平年並であった。  
7月1～3半旬の降水量は132.5mm（同90%）と平年並であった。  
梅雨入りは、6月22日（前年6月9日、平年6月11日）と平年に比べ11日遅かった。

### （3）全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、16.6MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比86%）と平年に比べ少なかった。  
6月の平均全天日射量は、20.3MJ/m<sup>2</sup>/日（同117%）と平年に比べかなり多かった。  
7月1～3半旬の平均全天日射量は、15.4MJ/m<sup>2</sup>/日（同100%）と平年並であった。

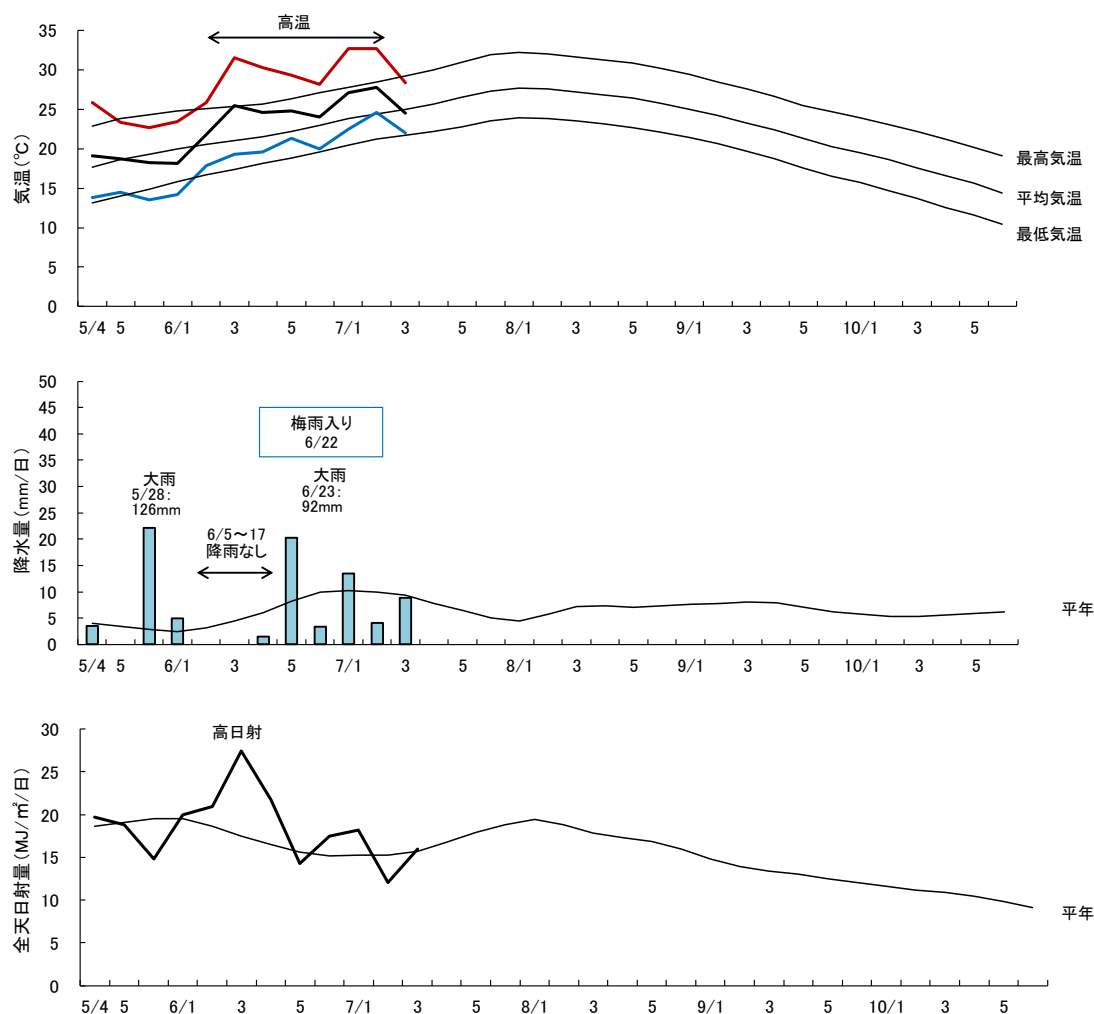


図1 令和6年の気象経過（富山地方気象台）

## 2 生育経過（生育観測ほデータ）

### （1）エンレイ（単作）

平年に比べ、主茎長は並、本葉葉数は0.3葉多く、一次分枝数は0.2本少なくなっている。  
5月末に播種されたほ場で開花期を迎えている。

### （2）エンレイ（麦あと）

平年に比べ、主茎長は長く、本葉葉数は1.3葉多く、一次分枝数は0.3本多くなっている。

### （3）シュウレイ

平年に比べ、主茎長はかなり長く、本葉葉数は1.8葉多く、一次分枝数は0.4本多くなっている。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（7月17日現在）

品種	年度	播種月日 (月日)	栽植本数 (本/m <sup>2</sup> )	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	開花期
エンレイ	単作	R6	17.7	47.5	8.9	0.6	—
		R5	17.4	39.9	7.1	0.4	7月22日
		平年	16.5	48.5	8.6	0.8	7月18日
	平年比・差	5	107	98	0.3	-0.2	—
	麦あと	R6	16.4	42.3	8.1	0.8	—
R5		16.5	42.1	7.6	0.8	7月19日	
平年		16.8	37.0	6.8	0.5	7月22日	
平年比・差	1	97	114	1.3	0.3	—	
シュウレイ	R6	12.4	45.4	8.2	0.9	—	
	R5	13.0	32.3	5.9	0.7	7月24日	
	平年	15.2	36.7	6.4	0.5	7月23日	
	平年比・差	1	81	124	1.8	0.4	—

注1) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作3)

注2) 平年値はH26~R5

注3) 平年比(差): 栽植本数、主茎長は平年比、播種日、本葉葉数、一次分枝数は平年差

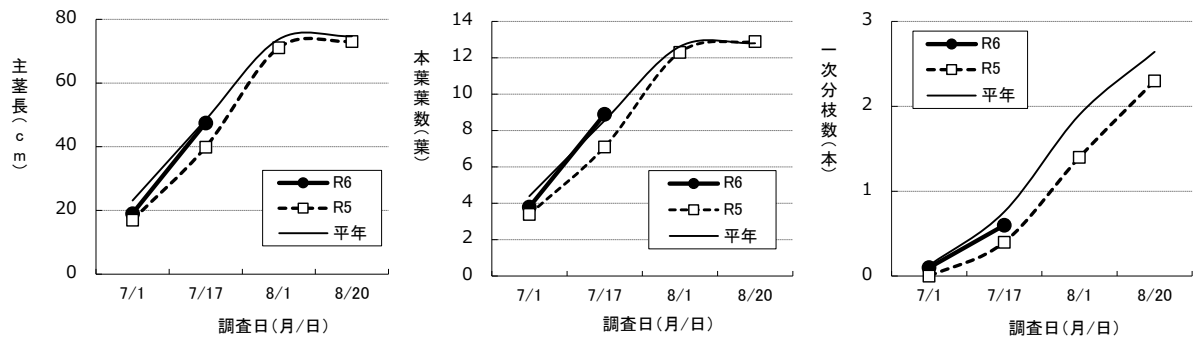


図2 単作エンレイの生育の推移

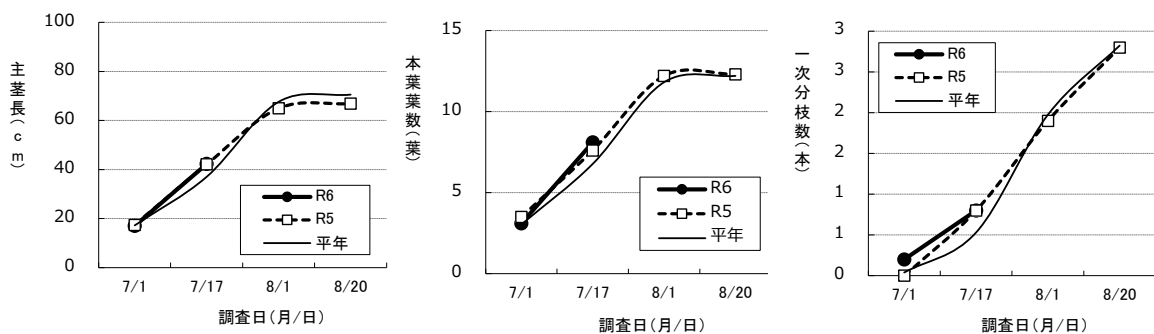


図3 麦あとエンレイの生育の推移

### 3 当面の技術対策

- ・ほ場内の水が停滞しないよう排水口の点検や溝の手直し等を行い、排水対策を徹底する。
- ・2回培土が完了していないほ場は、ほ場が乾いているときに速やかに実施する。
- ・開花期頃から晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を実施する。

#### (1) 排水対策

- ・培土作業を速やかに実施するため、ほ場内に水が停滞しないよう溝の手直し等を行い、排水対策を徹底する。
- ・培土でできた溝を額縁排水溝及び深く掘り下げた排水口にしっかり連結し、ほ場内に水が停滞しないようにする。

#### (2) 培土

- ・生育量の確保と雑草の発生を抑制するため、2回培土が完了していないほ場では、ほ場の状態を確認し、晴れ間をみて速やかに行う。なお、作業は丁寧に行い、株元までしっかりと土をかける。



写真1 畦間と額縁排水溝を連結し、排水を促進

#### (3) 畦間かん水

- ・開花期頃から3日以上晴天が続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を行い、莢数の確保を図る。
- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を閉めて速やかに排水する。

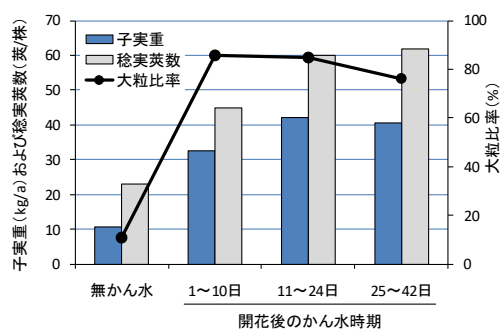


図4 かん水時期と収量の関係 (H14 農試)

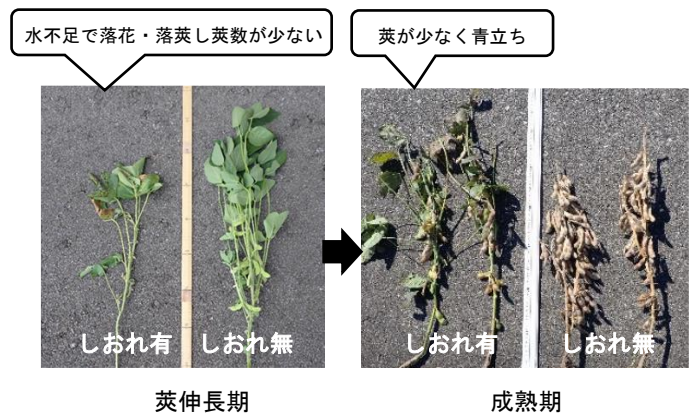


写真2 開花期以降の水不足により落花・落莢した大豆 (R5 現地ほ場)

#### (4) 病虫害防除

##### ア 黒根腐病

- ・過去に多発したほ場では被害が大きくなる。
- ・現在は有効な登録農薬がなく、土壤水分が高いと早くから発病するため、排水対策を徹底する。

##### イ ウコンノメイガ

- ・生育の旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発する傾向がある。
- ・7月6半旬に幼虫による葉巻を確認し、1株当たり平均6個以上の葉巻があれば、速やかに「ダントツH粉剤DL」や「プレバソフフロアブル5」等で防除する。

##### ウ 葉焼病

- ・強風雨で蔓延し、多発すると収量、品質が低下する。
- ・発生初期に「Zボルドー」等で防除する。シュウレイは発病しやすいため7月下旬頃に予防的に散布を行う。

(5) 雑草防除

- ・雑草が多い場合は、①雑草の種類や葉齢、②大豆の生育状況に応じて除草剤を適切に使用する。
- ・難防除雑草（帰化雑草等）が発生するほ場では、雑草の種類に応じて効果の高い除草剤を選定し、雑草が大きくなる前に防除を行う。
- ・帰化アサガオ類が発生するほ場では、つる化する前（6葉期前）に防除を行う。また、除草剤散布後に出芽する種子があるため、大豆で被覆されるまで継続して防除する。
- ・ほ場周辺（畦畔、農道等）で難防除雑草の発生がみられる地域は、開花・結実前に防除（非選択性茎葉処理剤、地際からの刈取り）し、まん延を防止する。

表2 大豆生育期処理除草剤

種類	適用雑草	除草剤名	使用方法		使用時期			使用回数	除草効果についての留意点
					時期	雑草の生育ステージ等	収穫前日数		
選択性除草剤	1年生イネ科雑草	ナブ乳剤	全面散布	雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	30日前まで	1回	・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。 ・広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない。	
		ワンサイドP乳剤		雑草生育期	イネ科雑草3～5葉期	60日前まで	1回		
		ポルトフロアブル		雑草生育期	イネ科雑草3～10葉期	30日前まで	2回		
非選択性除草剤	1年生雑草	ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	畦間処理	雑草生育期	前日まで	2回	・吊り下げの専用ノズルを使用する。 ・非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分注意する。	
		ザクサ液剤				28日前まで			
		バスタ液剤	株間処理	雑草生育期	28日前まで				
						大豆5葉期以降雑草生育期			
	ロロックス	雑草茎葉兼土壌散布	畦間・株間処理	大豆3葉期以降雑草生育期	雑草の草丈15cm以下	30日前まで	1回		
1年生広葉雑草	タッチダウンiQ	雑草茎葉塗布	雑草生育期	-	7日前まで	2回	・専用器具を使用する。 ・塗布処理場所は茎とし、大豆の草冠より上の10～15cm部分に行う。		

【吊り下げの専用ノズルを使用する際のポイント】

- ・大豆や雑草の大きさ、処理方法によりノズルの高さや角度を調整する。
- ・雑草全体に除草剤が付着するように散布する。

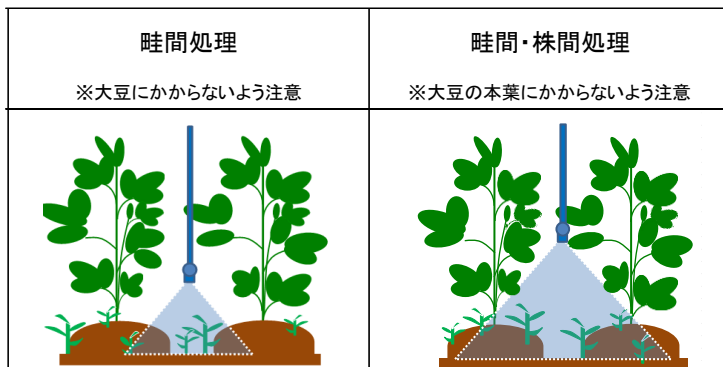


写真3 つる化し始めたマメアサガオ